

すべてを忘れ無心でボールを追う サッカーを楽しんで20年！



前半は5人対5人で約6分間のゲームを、途中でチームを換えながら行う。田中さんはどのゲームでもコートの中を動き回る。



田中さんの名前「一郎」にちなんで背番号16番のユニフォームを来て、いざ、練習へ。



田中さんが手描きする建築パースは立体的で美しい。マーカーのブランド「コピック」を使って描く。自分が思う空間を伝えたくて始めたそうで、描き方は我流だ。



フットサルの練習に集まった仲間たちと一緒に集合写真。中には「1st-leg!」のメンバーも。

田中一郎建築事務所

たなかいちろうさん「47歳」

取材／福島恵美 撮影／武田憲久

楽しみながら仲間とともに体を動かす

午後7時、体育館に田中一郎さんのサッカー仲間が集まり始めた。この日はフットサルの練習日。高校生から40代まで、色々なチームに所属する男女が混ざり、ゲームを楽しむ。田中さんはコートの中で、きびきびとよく動く。声を掛けてボールを呼び、メンバーからのパスを受け取る。相手チームの間を上手く抜け、シュートを決めた。

「フットサルでは、特にポジションを決めずに練習していて、ゴールキーパーもします。サッカーの方は主にサイドバック。僕は日本代表の本田圭佑選手と同じ金髪にしていますけど、前へ前へと攻撃する彼のようなタイプではなくて。後ろの方で、周囲に気を配りながら動いています(笑)。相手チームの攻撃への対応をしたり、攻撃に参加したりもします」

所属しているのは、兵庫県東播地域を拠点にしている社会人サッカーチーム「sage」(ファーストリーグ)。昨年、知人が立ち上げたチームで、東播リーグなどの試合にも出場している。

田中さん自身のサッカー歴は約20年。中学・高校時代はバ

スケットボール部だったが、Jリーグ誕生を機に「にわかファンで始めて」色々なチームで活動してきた。「今のチームのメインは、20〜30代。僕はシニアなので、楽しみながら体を動かせればいい、という気持ちで参加させてもらっています。大ケガをしない程度に」と笑うが、その練習ペースは週に2〜3回。夜10時から明け方2時に借りられるコートで、フットサルをすることもあれば熱心だ。

サッカーをすると発想が変わる!?

仕事では、非日常が感じられるガレージハウスや洗練された高級感漂う店舗などの建築設計を得意とする田中さん。プランに煮詰まった時は一旦仕事の手を止め、サッカーをすることがあるという。

「実は机の上でする仕事は苦手で、動いている方が好き。サッカーはボールを追い掛けるうちに自然に体を動かせますし、何より無心になれる。2時間程練習してからプランを見直す、新しいアイデアが浮かんでくることがあります。ミクロで見ていたことがマクロで見られ、客観的に捉えられるんです。サッカーを楽しむことで気分が変わり、発想が転換するのだから。」

フットサルをしている田中さんを見ると、年齢差が感じられない。学生時代にサッカーを経験していない、というのに。「大切なのは足の動き。コートの中を動き回ることで、足りない技術を補っています」。顔一杯に汗をかきながら、田中さんは夢中でボールを追い続けた。



田中一郎(神戸市中央区)
1969年兵庫県生まれ/1987年兵庫県立東播工業高等学校建築科卒業/1995年M&I建築研究室設立/2010年田中一郎建築事務所に改称